

## ■色とりどりの桜

フリースクールみなもは今年も子ども達が旅立っていく卒業のシーズンを迎えました。

特に今シーズンは長年みなもに通い、いわゆるみなもの「カラー」を築いてきた子ども達が多く卒業し、送り出す私たちとしても感無量です。

今シーズンの卒業生は通信17号での予告通り大人数！ 7名がそれぞれ次の道に向かって歩き始めます。



## ○みなもはコンピュータ好きが多い

しまあ相変わらずというかみなもらしいというか…。今期もコンピュータ系の専門学校に行く子どもの多いこと。7名中3名はそうした専門学校への進学。過去にみなもから進学した専門学校に今年も2名が入学、2年前の卒業生の後輩になるようです。それぞれ映像・ゲームプロデューサー・プログラマーと、分野は違えど研鑽していくことでしょう。

## ○「フリースクール」の役目を終えて

「みなも」は一定の役割を終え、他の団体へ所属を変える子どももいます。今年卒業を決めたこの子どもも長年みなもに通い続けた子どもの1人。悩みながら、スタッフとの相談を繰り返しながら、今みなもは一区切り。本人も納得しての卒業となりました。

## ○再び学校へ

中学校卒業の年齢と共に高校に進学する子ども、所属中学校へ再び戻る子どももいます。一度離れた学校という場所への再チャレンジ。今度は楽しい学園生活が待っていますように…。

## ○同じ世界へ

1人は卒業後も私たちフリースクールの世界への関わりを続けることを選びました。彼は卒業後関西のフリースクールのネットワーク団体の事務局にてボランティアとして活躍します。同じ世界を選んでくれたことは私たちとしても嬉しい限りです。

「みなも名物」卒業証書を手にした新しい道へ。彼らを送り出すと共に、みなもの方も明日から心機一転です！



## ■一部卒業生からのコメント

みなもでは TRPG をしたり、(いまはなき)声優研究会をしたり、何にもない日はおしゃべりをしたりととても楽しい十年ちょっとでした。

by 慎也

みなもに通い始めた頃は、不登校であることや将来のことを考えてずっと不安でした。でもスタッフの方々や友人と過ごしているうちにそういった暗い気持ちは少しずつなくなっていました。みなもで過ごした数年間、普通の学校に行っていたら学べなかったこと、経験できなかったことがたくさんあったと思います。寧ろ不登校で良かったと思うことさえあります。そのことに気付かせてくれたみんなに感謝しています。長い間お世話になりました。

by ルッキー

次に遊びに行く時まで「俺より強い奴」用意して下さい。長い間お世話になりました！

by シャーペン

お世話になりました！

みなもで学んだ三年間を忘れずこれから思う存分夢に向かっていきたいと思います！

本当に早くて、いろんなことが経験できた三年間でした。ありがとうございました

byK

## ■卒業ボランティアさんからのコメント

私が今回のボランティア活動を通して学んだことは、スタッフの方々や子ども達が優しい人ばかりで、私が分からない事などを丁寧に教えて下さり、温かく見守って頂けた所です。

また、子ども達とスタッフの方々が同じ目線でお話をしている所が素敵だと感じました。

そして、生活をする中で大切なことをみなも様にいる子ども達は沢山学んでいると知りました。

みなも様の活動に参加させて頂き、とても良い経験を沢山させて頂きました。

by T.M

## ■とある卒業生の生い立ち

(以下は、卒業生の P 君からいただいた寄稿文です)

私は、平成 8 年 1 月 18 日に誕生した。翌年平成 9 年 12 月、一歳の頃おもちゃのバイクに乗って遊んでいた。その時に母が、私の顔色の変化に気付き、母が私の顔に手を当てると、とても熱く体温を測ると 38 度であったと言う。母は私を連れて、近くの大阪の日本橋にある愛染橋病院に連れていき受診し採血を行った。血液検査の結果が悪く、その場で入院になり、その日から数日間おう吐下痢を繰り返した。点滴による加療をしたがまったく改善されないまま、平成 9 年 12 月 19 日に原因不明の大痙攣を引き起こした。ブリッジ状態の痙攣が数回にわたり起こり、その後一週間意識不明の状態になった。その時の後遺症で肺に異常がおこり、肺炎や喘息を引き起こした。その後、原因不明のまま退院するが、保育園・幼稚園・小学校では、喘息のため入退院を繰り返した。

小学校入学時には、発達の遅れが認められるようになった。安原こどもクリニックの院長安原先生が診断したところによると、広汎性発達障がい、精神障がい、知的障がい IQ68、軽度（高次脳機能障がい）記憶障がい、注意障がい、遂行機能障がい、学習障がい（書き、算数）だと言う。私は年齢に比べ

て使える単語の数が著しく少なく、人とのコミュニケーションが難しかった。その上右左の認知が出来ず、指先が極度に不器用で、衣服のボタンをはめることもできなかった。二年生になる頃にいじめの対象になった。二年の前期で支援学級に移動したがあまり学校に行かず、四年生の終わりに転校したが、そこでもいじめの対象になった。六年生の11月頃、ひどいいじめで小学校に行くことに恐怖を感じ引きこもった。平成20年中学に入学したが、フラッシュバック等が起こり一週間で引きこもりになり、ある日あまりのつらさに、家の中で暴れにあげられ、まわりのものを破壊した。台所の包丁を取り出し、自身の胸に刺した。母が止めに入り軽度のけがで済み、今では傷一つ残っていない。その時母親がぶつてくれたおかげで、軽いけがで済んだ。それまでは学校に行きなさいと言っていた母が、何も言わなくなった。数日後、今でもお世話になっている NPO 法人 フリースクールみなもへ連れていかれた。

フリースクールでも初めのころは、身内以外の人間と関わることがとても恐怖で、行くことがせいっぱいだったが、スタッフ I さんとポケモンのゲームをしたり、プラモデルを作ったりして、他人との関わりを徐々に取り戻し始めていった。しかし I さん以外の人と関わることがとても怖く、施設内の一角の部屋に I さんと引きこもり状態になっており、初めのころは、周りの部屋から聞こえてくる音・声・影がとても怖く感じていた。とある日スタッフ N さんからゲームに誘われたが、まだ関わるのが難しい状態だった。しかしそのうち、N さんやいろいろな人に誘われるようになったある日から、恐怖心が徐々に抜けていき、N さん達がやっていることに（テレビゲーム、カードゲーム、ボードゲーム）参加できるようになり、時には N さんがいない状態でも参加できるようになった。そしてある日から N さんを含め 4 人または 8 人でテレビゲームをすることがあり、そこから人と関わるようになり安心して日常を過ごせるようになった。身を投げ出すなどの考えが、生活の中からうっすらと消え去った。日が過ぎていくとともに、数人で日本橋に買い物に行った

りできるようになり、旅行などにも参加できるようになっていった。時が過ぎ、高校に進学する時期になり、学校に行かなくてはと思い始めたころ、I さんに学校に通わなくてよいという高校を紹介してもらった。平成23年松陰高等学校の通信学部に入學し、N さんや I さん等の多くのスタッフにサポートをしていただき、平成26年には無事に卒業できた。

その頃実の姉が原因不明の病に倒れたので、私が甥っ子の送り迎えや遊び相手などを引き受けた。その後姉が亡くなり、甥っ子は鹿児島県の且那さんの実家に預けた。さらに、時が過ぎ私が休みで鹿児島に帰っていたある日、且那さんの友人が子どもたちを連れて来ていた。且那さん達は飲んだり楽しくしており、私は、且那さんの息子つまり私の甥っ子や、且那さんの友人の子どもたちと、楽しく遊んだ。その時、子供たちの笑顔や、疲れて寝始める子ども達の自然な表情などを見て、かわいいなと思った。私が子ども達と遊んでいると疲れを感じず、笑顔を見ていると疲れが取れて、今までのことがなかったかのように、人生が楽しめるようになってきた。そしてこの体験から、子どもと関われる仕事がないかと思い、保育士を目指すことにした。

最初は通信教育で資格を取ろうと思ったが、集団生活のリハビリ、社会経験を積むこと、人間関係の向上のために、今の専門学校に決めた。みなものスタッフ Y さん N さんが交代で付き添ってオープンキャンパスに参加し、じきに一人でオープンキャンパスに行けるようになった。そうして、気に入ったその専門学校に入學が決まった。しかし、通学中や授業中、行事ごとの際に、フラッシュバックを引き起こすことが多かった。ある日下校中に地下鉄駅ホームの階段残りわずか3段のところ足で感覚を失い、そのまま、滑るように落ちた。授業中には意識を失うことも頻繁にあった。専門学校1年のころ、Y さんもクリニックの院長（Y 先生）から次のように説明を受け、ゲルストマン症候群（算数障がい・書字障がい・手指失認・左右失認）、海馬硬化症（けいれん・足のしびれ・突然の感覚失認）OD 起立性

調節障がい（立ちくらみ・朝に起きれない）と診断された。平成28年3月9日には同クリニックで、てんかんの診断も受け、今は癲癇発症予防のため抗生剤を日々欠かさず飲んでいる。今後は、抗生剤の量を減らして症状を抑えていく。

こんなことがありながら、IさんYさんなどの多くのみなもスタッフのサポートのおかげで、二年間の短期大学通信学部を無事卒業し、幼稚園教諭の資格を取ることができた。同時にみなものフリースペースから自立し、残り一年専門学校とみなもの塾で、保育士の資格を取るために勉強をしている。また、自己の障がいやいじめられた記憶についても、昨年からの取り組みで、このような文章にして心の整理をしたり、トラウマからくるフラッシュバックを軽減する努力を重ねている。今後は、さまざまな障がいについても学びを深めていき、自己の体験を生かしていけるよう、これからも努力を続けていきたい。

## ■英語多読本をコンプリート！

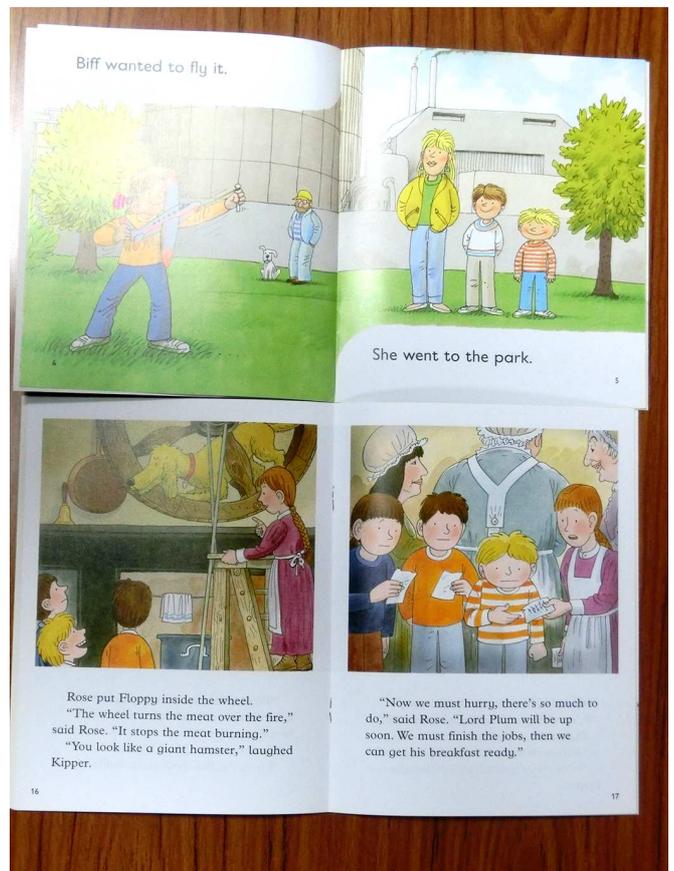
みなもでも「英語が苦手！」「英語がきらい！」という子が今までにたくさんいましたが、その子らが英語を勉強する上である程度以上の効果を発揮してきた本のシリーズがありました。

『Oxford Reading Tree』というイギリスの小学校の副読本のシリーズで、一冊一冊が薄く簡単な文と絵で一冊完結、それが何十冊もあって、ほんの少しずつ文が長くなり、難しい表現も出てくるようになる……というものです。基本的にオチがあって、楽しく読めます。このシリーズは「簡単な英語の本を大量に楽しく読んでいけば、英語の力が身につく」という英語多読という分野で、まず第一に薦められるシリーズでもあります。

今までスタッフの松浦が個人的に買って使っていたものが（難易度）Stage1+からStage7まで64冊あ

ったのですが、このたびニッセイ財団さんの助成金をいただいて、まだ入手していないものも全部買えることになりました。新たに買えることになった冊数、実に120冊！（これで現在手に入るものはコンプリートしたことになります）Stageも9までそろいました。

冊数が多ければ多いほど、無理なく英語に触れて学んでいくことができるので、全部そろえるのはみなも当初からの夢でもありました。ニッセイ財団さんに感謝です！

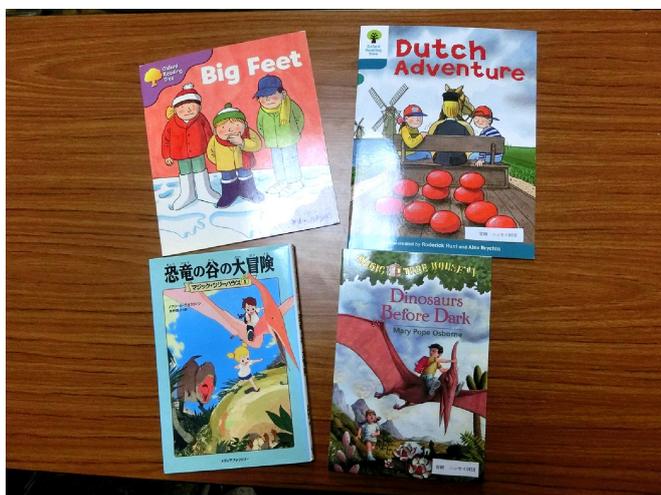


しかもさらに、英語多読の世界で『Oxford Reading Tree』と双璧のようにして推薦される『Magic Tree House』シリーズも、ニッセイ財団さんの助成金で購入させていただくことにしました。このシリーズは子ども向けの読み物としても世界中で大人気で、何十カ国語にも翻訳され出版もされているとか。これも現在手に入る47巻までと、その朗読CDもセットで。こちらは英文的には『Oxford Reading Tree』よりもだいぶ難しくなり、中級者向けという感じでしょうか。日本語訳の本も出ているので、個人的に

2冊ほど購入して一緒に置いてあります。

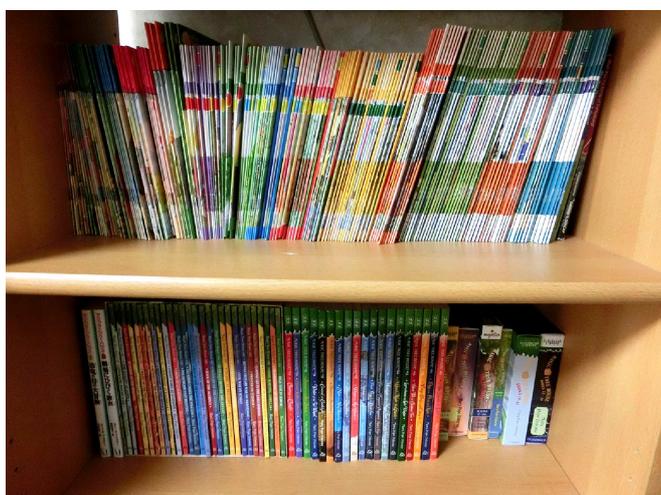
他に最近みなもの一部で人気なのは、若者向けの『Who Was ...?』『What Was ...?』というシリーズで、スティーブ・ジョブズやアメリカ第18代グラント大統領の伝記、それにゴールドラッシュやゲティスバーグの戦いといったことを扱ったものを読んだりしています。

個人的に英語を勉強する上でも、大量の英語に楽しんで触れることがものすごく良く効くと思っています。これらの本を活かして、多くの子がぜひ英語に触れてくれればと思います。



↑上が『Oxford Reading Tree』。

下が『Magic Tree House』(左は和訳本)



↑2Fの扉を入ってすぐの本棚の上段に

『Oxford Reading Tree』

下段に『Magic Tree House』を並べてます。

## ■文部科学省との調査研究事業完成！

2015年度は、文部科学省の「平成27年度いじめ対策等生徒指導推進事業」というものの委託を受けて、フリースクールにおける学習の在り方や位置づけを調査・研究していました。「数学や英語などの教科学習をどうするか」…フリースクールによって考え方や対応方法は違ってきます。教育の在り方がいろいろあって良いように、教育よりも小さなカテゴリーである「勉強」にも、多様性があるのが良いと思います。

この事業では、今ここで勉強に励んでいる子どもたちが、どのようにみなもの学習プログラム(お昼の授業の時間とか、個別指導塾みなものとか…)を利用し、どんなニーズを持っているのかを調査しました。当然といえば当然ですが、子どもが、教科学習に対して求めることは本当に多様です。進学塾並みの学習を求める子どももいれば、まったくゆったりとした勉強を求める子どももいます。そして、勉強をしていく中でも、子どもの勉強に対する思いは変化し続けます。フリースクールの居場所での活動を通じて、フリースクールへの捉え方が変容するのと同じですね。



詳しくは研究成果を論文形式でまとめた冊子がありますので、そちらをお読みくださいね。論文形式だけあって、ちょっと読みにくいんですがご容赦下さい。

## ➤ ・賛助会員・カンパのお願い

当法人は、何らかの事情により学校に通うことでできない不登校の子どもたちでも安心して過ごせる社会の実現のため、日々活動しております。

しかし、本来教育とは公の支援なしにできるものではありません。例えば私立の学校などでも、生徒保護者からの学費の他、私学助成を受けることで成り立っています。ですが私どもフリースクールの場合、公の支援制度がないことから、そうした子どもたちに学校と同程度の教育を用意することが非常に困難となっております。

そうした中、子どもたちの保護者様からの月謝や多くのボランティアの方々に支えられながら運営を続けておりますが、やはり財政的に不安定な状態が続いていることは避けられません。

つきましては、もし当団体の活動やその意義に賛同いただける際には、ぜひとも皆様のご寄付を賜りたく存じます。子どもたちの活動をより充実させるため、何卒皆様のお力をお貸し下さい。

### ■ご寄付の方法

郵便局に備え付けの「郵便振替 払込取扱票」より、以下の振替口座にお振り込みください。その際、備考欄に以下の必要事項をご記入下さい。

口座記号番号：00960-0-204146

加入者名：フリースクールみなも

備考欄：氏名・ご住所・電話番号・(E-Mail アドレス)・  
寄付の種類・口数(賛助会員の場合)をご記入  
下さい。

寄付の種類

賛助会費…年度更新により、毎年定期的にご寄付いただく会員。一口3,000円で、任意の口数。

寄付金…1回限りの寄付。任意の金額。

## ➤ ・ボランティア募集中！

フリースクールみなもではボランティアを募集しています！ 現在、子ども達と一緒に過ごしていただけるボランティアの他、特に理系の数Ⅲ数学が教えられる方また英会話が教えられるボランティアさんが不足しております。興味のある方はメールでフリースクールみなも(fs-minamo@nifty.com)宛てに、もしくはフリースクールみなものファックスにご連絡下さい。

## ➤ ・「親カフェ」のご案内

フリースクールみなもでは、原則毎月第4土曜に「親カフェ」(不登校の子を持つ親の会)を開いています。「親カフェ」は、不登校のお子さんを持つ保護者の皆さんに、お互いの気持ちを共有し合える場を提供することを目指した会です。みなもの会員であるかどうかにかかわらず、どなたにも参加していただけます。参加をご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

【概要】 日時：毎月第4土曜日の14:00～17:00  
場所：フリースクールみなも、参加費：500円(茶菓子代として)、アドバイザー：中尾安余さん(みかんさん=結空間代表)、担当スタッフ：中村有美

## 『フリースクールみなも通信』第19号

発行日：2016年6月6日(本号6頁)

発行者：特定非営利活動法人フリースクールみなも  
(理事長・今川将征) 編集担当：松浦 豊

○特定非営利活動法人 フリースクールみなも  
(2005年6月15日認証=大阪府指令府活第2-58号)

会員(利用者)：30名(2016年6月現在)

代表：今川将征(理事長)

スタッフ：常勤4名、非常勤4名、ボランティア数名

初オープン日：2004年11月1日

住所：〒530-0044 大阪市北区東天満1-4-3

(地下鉄「南森町」駅から徒歩7分、JR東西線「大阪天満宮」駅から徒歩5分)

電話・FAX：06-6881-0803

対象年齢：6歳～18歳

活動時間：平日の11時～20時

入会説明会：随時(体験入会一ヶ月間無料)